

授業概要

本授業では、主体的・対話的で深い学びを促す授業を展開するために必要な知識と実践上の工夫について講義する。その上で、国語科の目標や内容・方法を実践的に理解し、自らの授業力を向上させるために必要な知識や技能について、模擬授業の実施や学習指導案の作成を通じて指導する。以上を通じて、国語科の授業のあり方について深く思考することを目指す。

授業計画

第1回	オリエンテーション（模擬授業担当の決定を含む）
第2回	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた国語科の学習指導案
第3回	教材研究・教材開発の方法と学習指導案
第4回	国語科の授業研究の方略
第5回	模擬授業①（中学校国語科「A 話すこと・聞くこと」の指導計画と教材研究）
第6回	模擬授業②（中学校国語科「B書くこと」の指導計画と教材研究）
第7回	模擬授業③（中学校国語科「C読むこと」の指導計画と教材研究）
第8回	模擬授業④（中学校国語科「知識及び技能」の指導計画と教材研究）
第9回	模擬授業⑤（高等学校国語科「現代の国語」の指導計画と教材研究）
第10回	模擬授業⑥（高等学校国語科「言語文化」の指導計画と教材研究）
第11回	模擬授業⑦（高等学校国語科「論理国語」「国語表現」の指導計画と教材研究）
第12回	模擬授業⑧（高等学校国語科「文学国語」「古典探究」の指導計画と教材研究）
第13回	国語科教育と教育 ICT の利活用
第14回	単元指導計画を見据えた学習指導案の作成と推敲
第15回	まとめ：国語科を「教える」方略を身につけるために
第16回	期末課題の提出

到達目標

- ・「主体的・対話的で深い学び」を促す授業を展開するために必要な知識と実践上の工夫について理解することができる。
- ・国語科の目標や内容・方法、自らの授業力を向上させるために必要な知識や技能を身につけることができる。
- ・国語科の授業研究の方略について実践的に理解し、学習指導案や指導計画を作成することができる。

履修上の注意

- ・10分以上の遅刻は欠席とみなすので注意すること。
- ・Teams を使うため、情報機器（PC 推奨、タブレット端末・スマートフォン等も可）を毎回持参すること。
- ・毎回のリアクションペーパーについて、欠席回および遅れて提出されたものについては原則成績に参入しないので注意すること。ただし、実習等やむを得ない事情がある場合は考慮するので必ず事前に申し出ること。
- ・本授業は「国語科教育法Ⅰ」の内容を前提として実施するため、履修済みであることが望ましい。

予習・復習

- ・予習：模擬授業の実施にあたって必要となる準備を必ず行うこと。詳しくは初回に案内する。
- ・復習：リアクションペーパーの作成を通じて丁寧に行うこと。詳しくは初回に案内する。

評価方法

- ・授業各回の内容理解：30%（リアクションペーパー（毎回提出）の内容で評価する）
- ・授業内課題：40%（模擬授業および事後討議の内容で評価する）
- ・授業全体の内容理解と考察：30%（期末課題で評価する）

テキスト

- ・資料を配布するが、「【国語編】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説」（文部科学省）および「【国語編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説」（文部科学省）は事前に入手しておくこと（以下のリンク先からダウンロード可 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）。